

ホセ・カレーラス チャリティ・コンサート会見から

TOPIC

3大テノールの一人としてもおなじみのホセ・カレーラスが慢性骨髄性白血病に冒されていることが判明したのは1987年7月のこと。同年11月に骨髄移植により奇跡的に回復、第一線に復帰し、再びファンを堪能させる美声を聴かせている。この驚異の回復を実現させたのはなんと、骨髄提供者のお

薬株式会社3者により、10月30日東京・サントリホールでチャリティ・コンサートが開催された。10月31日、都内の記者会見で高久史慶理事長は「飛行機の中でふと眼にしたカレーラス、チャリティ・コンサートのパンフがきっかけ」と開催への経緯を語る。同パンクでは9月の同時多発テロの際、全米骨髄

バンクからの搬送にチャーター機を利用するなど、事態に即応した活動を推進している。チャリティ・コンサートとして3回目の来日のカレーラスは、この10年間に毎年10〜12回のチャリティ・コンサートを世界各地で開いてきた。今後も活動を続けて世界中の人々との絆を結ぶためのネットワークを広げたい」と話していた。(加藤素子)



今後もチャリティ活動が続けたいというカレーラス ©竹原伸治

浜松で音楽療法セミナー開催

TOPIC

河合楽器製作所では、カワイ音楽教室で長年にわたって蓄積された実践経験を生かし、2年前から「カワイ音楽療法研究グループ」を設立さ

せて音楽療法について学んできたが、この度、広く音楽療法や音楽教育に関心を持つ人に向けて音楽療法セミナーを開催することとなった。

洗足学園大学・日本大学芸術学部非常勤講師で全日本音楽療法連盟認定音楽療法士の二俣泉氏と、横浜国立大学教育・人間科学部教授・日本音

楽療法学会常任理事・日本音楽教育学会理事の丸山忠雄氏の二人を講師に迎え、12月22日(土)13時からアクトシティ浜松研修交流センター62研修交流室で行われるこのセミナーでは「知的障害児の成長と音楽」「福祉と教育における音楽」というテ

マで、音楽療法、音楽教育について考えていく。受講料は5千円。定員100名で、定員になり次第締切。問合せは、事務局 ☎0120・106・6377 (平日10時〜17時)、03・3320・1671 (平日9時〜17時半) まで。

東京室内歌劇場の『ヴェニスに死す』12月に

TOPIC

1998年10月東京・新国立劇場中劇場で、プリテンの『ヴェニスに死す』を日本ではじめて上演したのが東京室内歌劇場。同歌劇場は、プリテンの作品には縁が深く、(ねじの回転)『アルバート・ヘリング』、『ヘルレーシアの凌辱』など室内オペラ

の数々を日本初演してきた。そしてこの12月に、初演時とほぼ同じキャスト・スタッフ一同によって『ヴェニスに死す』が3年ぶりに再演されることとなった。日時・場所は、12月22日(土)6時開演、23日(日)2時開演/新国立劇場中劇場(SS¥14

000/学生¥3000)。指揮：若杉弘、演出：鶴山仁で、キャストは、アッシュエンバツハ・近藤政伸(22日)、蔵田雅之(23日)、アポロの声・米良美一ほか、歌わず、語らず、存在する、このオペラのかなめを担うタツジオ役に、日本体操

界のアイドル、田中光が特別出演することも話題。タツジオ役には歌う場面はないが、堀内充の振付けによる斬新なダンスを披露する田中に、聴衆は釘付けになるに違いない。ほか、旅人伊達勇登が役に久岡昇(22日)、宮本益光(23日)。また、美術を妹尾河童が担当するという、豪華な顔ぶれだ。

マーラーの「アダージェット」等を効果的に用いて独自の映像美を造り出したルキノ・ヴィスコンティの映画「ヴェニスに死す」(71年作)の印象は今でも強烈だが、その2年後に初演されたプリテンの最後のオペラ(『ヴェニスに死す』)は、意識的にヴィスコンティの映画を鑑みず作曲されたという。問合せは、東京室内歌劇場 ☎03・5642・2267

中村紘子がピアニスト100シリーズ後半の音楽監督に

TOPIC

彩の国さいたま芸術劇場が自主事業のひとつとして1997年4月か

ら進めてきたピアニスト100シリーズの前半50人が終わり、200

2年から後半に入るが、音楽監督にピアニストの中村紘子が就任、同年

度の10人が選ばれた。このシリーズは97年度から一年間に10人ずつ10年間かけて100人のピアニストがソロ・リサイタルを開くもので、前半5年間には第1回の

中村紘子から園田高弘、小山実稚恵、アシケナージ、ダン・タイ・ソン、ボゴレリッチなど11か国(日本人は32名)が出演してきた。2002年度の出演者は、台湾の

ツイイ・チェン(17)、中国のラン・ラン(19)、大崎結真(20)、韓国のハエン・スン・パイク(35)、上原彩子(21)、ロシアのアレクサンドル・トラージェ

(49)、フランスのエレーヌ・グリモ(31)、広瀬悦子(21)、中国のサ・チェン(22)、ウクライナのアレクサンダー・ガブリリウク(17)。

諸井誠芸術監督は「多くの国際コンクールの審査委員を務めている中村さんに優れたピアニストを発掘してもらう意味も含めて最適」と思い

音楽監督を引き受けてもらいました」と言い、また中村新音楽監督は「国際的に若いピアニストは中国、韓国などを含めて変化しており、21世紀

がこれからどうなるかを考えながら2002年度も若い人にも眼を向けたい」と話している。(栗田晃穂)

ジオルジュ・エネスコ国際音楽コンクール2001

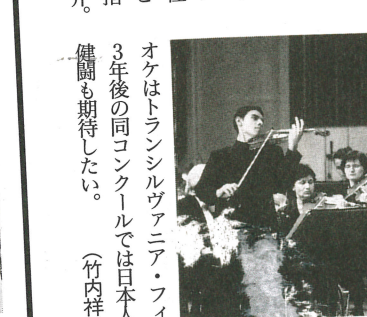
TOPIC

第15回ジオルジュ・エネスコ国際音楽祭に時期を合わせ、ルーマニアの首都ブカレストで9月16日からジオルジュ・エネスコ国際音楽コンクールの行われ、声楽、ピアノ、ヴァイオリンの3部門で、1週間にわたり熾烈な戦いが繰り広げられた。エントリー数は声楽部門が37名、ピアノ部門が21名、ヴァイオリンが35名と人的には大勢とは言えなかったが、ロシア、フィンランド、フランス、

ドイツ、ルクセンブルグ、英国、韓国、中国など国際色豊かな参加者が集った。エネスコ没後の58年に始まり、70年から98年まで中断されたが、今回で8回目。過去の審査員にはメニエイン、オイストラフ、アラウ、ルービンシュタイン、シュワルツコップなどが名を連ね、入賞者にはルーバ、バルツァ、コトルバシユなど世界的な演奏家がいる。

性で、優勝がB・ヨーゼフ・ベンチ(Bs)、2位がR・ルーベン・ムレツァン(Br)、3位はA・ウラディミール(Br)で、この3人は既に現役の劇場歌手として活躍している。ヴァイオリン部門はユーゴスラヴイア出身の15歳、ネマーニヤ・ラドウロヴィッチが終始安定した素直な演奏で第1位を獲得。将来、大成する器として期待したい。同時にこのコンクールの特徴でもある「ジオル

ジュ・エネスコ賞」も彼が獲得した。2位はジオルジュ・C・パニカ、3位がシユテファン・ホルヴァス、「イオン・ウオイク賞」はアメリカのエミール・チュドヴスキーが獲得。入賞者はいずれも男性で、日本人は第一次で機会を逸した。ピアノ部門も上位3人がルーマニア人。第1位はイアナ・イオネスク、2位がマテイ・ヴァルガ、3位はマリア・マクダレーナ・ポドワラカでいずれも女性だった。ファイナルのピアノ部門と優勝者によるガラ・コンサートの指揮はルーマニアに縁の深い曽我大介



ヴァイオリン部門で優勝したネマーニヤ・ラドウロヴィッチ 指揮は曽我大介

『月光ソナタ』2000年記念コンサート

TOPIC

ベートーヴェンが「ピアノ・ソナタ第14番『月光』」を作曲したのは、現在のスロヴァキア首都ブラティスラヴァに程近いドルナー・クルーパーにあるブルンスヴィック伯爵の宮殿の離れであった。今からちょうど200年前の1801年である。

9月2日、その場所に近いプロホフエツ市の、やはりベートーヴェンにゆかりの深いエルデーティ伯爵の宮殿内のエンピール劇場(1802年建造)で『月光ソナタ』作曲200年記念コンサートが開かれた。スロヴァキアのフンメル協会主催によ

るもので、日本から招かれたピアノ・スト、山季布枝のリサイタルという形で行われた。演奏に先だって、フンメル協会会長で、フンメル、ベートーヴェン研究の第一人者でもあるルヴィツァ・パロヴァー博士の挨拶と日本フンメル協会会長の岳本恭治

氏から、当日使用されたワイーン・メカニックのピアノ(1849年クレンマー製)についての説明があった。ベートーヴェンが当時演奏していた条件とほぼ同じ楽器、会場、気候の中で聴く『月光ソナタ』の自筆譜のベタリングが、現代のピアノでは表現しきれないほど、繊細なものだったということなど、ベートーヴェンの意図が実証されたようだった。



スロヴァキア国営放送の取材を受けるフンメル協会会長のルヴィツァ・パロヴァー博士とピアニストの山季布枝(中央)

秋山和慶と東京交響楽団のストラヴィンスキー『3大バレエ』

TOPIC

ストラヴィンスキーの「3大バレエ」と言えば、いずれも大編成のオーケストラによる難曲ばかりだが、この度、秋山和慶指揮による東京交

響楽団が、一晚でこの3曲に挑むというチャレンジングで珍しいプログラムを披露する。5管編成16型の大オーケストラによる変拍子を数多く

含む『春の祭典』などは技術的にも難曲だし、合わせて『火の鳥』『ペトルシユカ』も一挙に演奏するといふことで、指揮者のみならずオーケ

ストラの団員にも相当に過酷なプログラムだ。日時12月8日18時開演(場所グリーンホール相模大野)出演 秋山和慶指揮東京交響楽団、小林万里子(2) (問合せ) 相模原市民文化財団 ☎042・749・220



秋山和慶